

1 ヒグマに出遭わないために

出没地域に住む人

- ・生ゴミ(コンポスト)などを屋外に置かない
- ・ヒグマの好む作物は、電気柵で防御
- ・出没情報があるときは、夜間や薄暗い時間帯の外出を避ける
- ・犬の散歩は、吠え声でヒグマを興奮させる恐れがあり危険



3 人とヒグマとの共存のための取り組み

- 登山・ハイキング・山菜採りなどは **特に注意!**
- ・出没情報のあるところには立ち入らない
 - ・野山などでは複数人で行動する
 - ・鈴や笛で音を出しながら歩く
 - ・ヒグマの痕跡を見つけたら引き返す
 - ・早朝や夕方はヒグマの活動が活発になるので注意
 - ・溪流近くは周りの音が聞こえづらいので注意
 - ・万が一の場合に備えて、クマスプレーを携行する



2 ヒグマに出遭ってしまったら

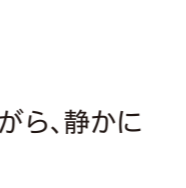
遠くにヒグマを見つけたら、その場から静かに立ち去る

落ちついて状況を判断し、その場から静かに立ち去りましょう。



ヒグマがこちらに気づいても、あわてないで静かに立ち去る

ヒグマの移動する方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。



それでも近づいてきたら ゆっくりと後退

ヒグマから視線を離さず、ヒグマの動きを見ながらゆっくりと後退を。



走って逃げるのは自殺行為

ヒグマを刺激しないよう、ゆっくりと後ずさりしましょう。



子グマの近くに必ず母グマあり

母グマは子グマを守ろうと攻撃します。決して子グマに近づかないように。



襲い掛かってきたら、首の後ろを手で覆い地面に伏せる 100%完全な対応ではありません

首や後頭部への致命傷を防ぐため、首の後ろを手で覆い、地面に伏せることが有効と言われています。

INTERVIEW インタビュー



さとう 喜和さん
酪農学園大学 教授
農食環境学群 環境共生学類
野生動物生態学研究室

ヒグマの生態の研究に加え、農地や人里への出没原因の解明と対策にも取り組んでいる酪農学園大学の佐藤喜和教授にお話をうかがいました。

- ヒグマが人の生活圏に入り込む理由は？
5~7月上旬の繁殖期は、子グマを襲うことのあるオスグマから逃れるため、母子グマが人里周辺に現れたり、親離れした若いオスグマが、川沿いや防風林などを伝って市街地に迷い込むことがあります。
8~9月には、エサとなる草が堅くなって食べづらくなる時期で、収穫期の農作物を狙うようになることもあります。
- ヒグマを人の生活圏に来させないための対策は？
すみ分けによる共存を実現するため、山と人里がつながる川

沿いや防風林などに、ヒグマの侵入を遮断するような環境整備が必要です。通路がある以上、捕獲だけでは解決しない問題です。自然災害に備えるように、社会全体で備えたいものです。

●私たちがやるべきヒグマへの備えは？
生ゴミの放置は「無意識の餌付け」です。コンポスト、ペットのエサ、廃棄した農作物や収穫しない果樹などは適切に処分しましょう。また、野山に入る際は、複数人で行動し、声を出す、手をたたき、クマ鈴を鳴らすなど、ヒグマに人の存在を知らせることが有効です。

地域おこし協力隊Café 別海町

都会に住む人が課題を抱える市町村に移住し、才能や能力を発揮する地域おこし協力隊。今回は、酪農のPR活動に取り組む別海町の隊員を紹介します。

酪農生活を実際に経験して、現場の問題点と向き合うことがPR活動の原点！

みはらもえか 三原 萌佳さん
大阪府寝屋川市出身

別海町で酪農のPRに取り組んでいます。経験や知識が全くなかったため、まずは酪農研修牧場で生活して、日々の様子をSNSなどで発信しました。その他にも、牛の飼料を食べるエゾシカを駆除するために狩猟免許を取得したり、女性が活躍できる酪農の実現に向けて、就農女性を対象としたセミナーを開催するなど、酪農生活の経験を生かして、現場の問題点と向き合ったPR活動に取り組んできました。今後は、まさに少ない宿泊施設の運営や、酪農の6次産業化などにも取り組んでいきたいです。

高校生のマナピバ

新たな視点で学びを深める道内の高校生の話題をお届けします。

「北方領土プロジェクト“N”」の活動紹介
根室振興局と管内の高校が連携して、根室地域の北方領土・学校教育をめぐる課題を考える「北方領土プロジェクト“N”」。北海道根室高等学校の北方領土根室研究会ではさまざまな活動に取り組んでいます。

高校を卒業しても北方領土を多くの方々に知ってもらえる活動をしていきたいです。
北海道根室高等学校2年 北方領土根室研究会会長 類瀬 智人さん

さまざまな活動を通して、もっと北方領土を知ってもらいたい。

根室高等学校の北方領土根室研究会では、北方領土について説明する「出前講座」、学校祭や根室振興局のイベントなどで行う「署名活動」、元島民の方々の話を聞く「ラジオ収録」などを行っています。こうした活動を通して、同世代の高校生や管外の方々にも、北方領土についてもっと知ってもらえるようになってほしいです。

署名活動を行う根室地域の高校生
根室振興局北方領土対策課 TEL.0153-24-5592

北海道ヒグマ管理計画

道では、ヒグマによる人身被害の防止や人里への出没の抑制、農業被害の低減、ヒグマ地域個体群の存続を図るため、「北海道ヒグマ管理計画」を策定し、2つの方策を柱とした総合的な対策に取り組んでいます。

※近年、人とヒグマとのあつれきがかつてないほど高まっており、その低減を図るため、現在、計画の見直しについて検討を進めています。

①あつれき低減のための方策

人とヒグマとのあつれきの低減には、問題個体の発生抑制と排除のための対策が必要なほか、一人一人が被害に遭わないための正しい知識を身に付けることが重要です。道では、ごみや農作物の管理を徹底し新たな問題個体を発生させない取り組みや、問題個体の排除、電気柵の導入促進による農業被害の防止、ヒグマに出遭った時の対応などに関する正しい知識の普及などを行い、あつれきの低減を図っています。

②地域個体群存続のための方策

地域個体群を保全するために、研究機関や関係機関などと連携を図りながら、科学的なデータの蓄積や個体数などの把握のための調査研究やモニタリングを行っています。また、地域ごとにメスの捕獲数に上限を設けるなど、地域個体群の絶滅を回避する管理を行っています。

春期管理捕獲

概要	実施結果
人里周辺のヒグマの生息密度を減らし、人への警戒心を持たせ、人里への出没を減らすとともに、捕獲従事者の育成を進めるため、2~5月に春期管理捕獲を実施しました。	昨年比べて捕獲数は減少しましたが、捕獲実施市町村数は約2.7倍に、実施延べ日数も約3倍になり、ヒグマに警戒心を植え付ける機会が増えました。また、経験の浅い方の延べ人員は約1.9倍に増えており、実践の中で経験を積むことで、ヒグマ捕獲従事者の育成に寄与しました。

指定管理鳥獣への指定

指定のポイント
昨年11月、クマ類によるあつれきの高まりを踏まえ、北海道東北地方知事会として、国に対し、クマ類の指定管理鳥獣への指定などについて緊急要望し、本年4月、国は、クマ類(四国を除く)を指定管理鳥獣に指定しました。この度の指定により、国においては、クマ類特有の課題に対応した支援を行うこととしており、道としては、国の支援を活用した対策を進め、より実効性あるヒグマ対策の充実・強化に取り組めます。



昨年11月に実施した緊急要望の様子

ヒグマの有害捕獲へのご理解について

ヒグマの捕獲に従事される方々は、地域の安全・安心を守る上で、欠くことのできない存在です。こうした方々が、道民の生活を守るために、安心して捕獲に取り組んでいただけるよう、捕獲に従事される方々の社会的な重要性をご理解いただきますようお願いいたします。



特集に関するお問い合わせ / 道庁ヒグマ対策室 TEL.011-204-5988

Pick Up! 地域情報

北海道の各地域から話題をお届けします。

北海道内市町村 広報紙(誌)ページへのリンク集

釧路総合振興局 「あなたも今日から#kushiro_lovers (くしろラバーズ)へ！」SNS投稿キャンペーン

道東道(本別~釧路)の全線開通に向けて、「これぞ、くしろ！」といった魅力を、くしろファンの皆さん(Kushiro Lovers)とともに発信するSNS投稿キャンペーンを行っています。期間は、令和7年3月31日まで(第一弾は、令和6年8月31日まで)。

わくわくくしろが ちかくなる。

お問い合わせ / 釧路総合振興局商工労働観光課 TEL.0154-43-9184

宗谷総合振興局 利尻礼文サロベツ国立公園指定50周年

利尻礼文サロベツ国立公園指定50周年を迎えることを記念して、当エリアの魅力を発信し、知名度を高め、来訪意欲の向上を図るため、スタンプラリーやフォトコンテストなどの各種記念事業を実施しています。

お問い合わせ / スタンプラリー 稚内市建設産業部観光交流課 TEL.0162-23-6272

お問い合わせ / フォトコンテスト 宗谷総合振興局商工労働観光課 TEL.0162-33-2927

北海道・札幌市が「金融・資産運用特区」の対象地域となりました

道と札幌市が「北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」を共同で提案し、6月に北海道と札幌市が金融・資産運用特区の対象地域となりました。併せて、北海道全域が国家戦略特別区域に指定されました。

●北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」とは？

北海道が有する国内随一の再生エネルギーの供給地、またアジア・世界の金融センターの実現を目的としています。このために、道内でGX関連事業を導入・実施しやすくなるような規制緩和や、札幌市内でGX関連事業への投資を支える金融機能の強化・集積が進むような規制緩和をはじめとした様々な取り組みを実施することにより、全道域でのGX産業の振興を図り、環境と経済が好循環する持続可能な地域社会の構築を進めます。

目指す姿
札幌市域での金融機能の強化・集積
資金・人材・情報の集積
全道域のGX産業の振興
日本の再生可能エネルギーの供給地 アジア・世界の金融センターの実現

GXとは？ 化石エネルギーを中心とした現在の産業構造・社会構造を、クリーンエネルギー中心へ転換する取り組みのこと。

道庁ゼロカーボン産業課 TEL.011-206-9094